

A・MUSEUM

vol.98
[2019.3.15]



ミュージアムパーク
茨城県自然博物館



ニホンイタチ



チョウゲンボウ

あっ！かわいい!! あなたはハンター？

当館近くの河川敷でニホンイタチを見つけました。かわいい顔をしていますが、ネズミやカエルなどを巧みに捕えて食べるハンターです。直接目にすることは少ないのですが、県内では水田や河川敷など身近な環境に広く生息し、当館の野外施設にも生息しています。土手に目を向けると、小型の猛禽類であるチョウゲンボウが見つかりました。愛らしさと鋭さを合わせた表情をもつハヤブサの仲間、こちらも軽やかな飛翔で獲物を捕える身近なハンターです。

7月から開催する第75回企画展「狩ーハンターたちの研ぎ澄まされた技と姿ー」では、チーターやオオカミ、ホッキョクグマといった世界の肉食動物をはじめ、私たちの身近に生息するさまざまな狩りをする生きものにも注目して紹介します。（資料課 後藤優介）

特集

当館でNORNAC21「調査研究・活動事例発表会」が開催されました！

自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC）は、日本各地の自然を守るためにさまざまな調査研究や取り組みを行っている国や地方自治体の機関で構成されている組織で、現在、54機関が加盟しています。それぞれの機関の活動の成果を発表したり、自然環境保全などに関する情報交換・情報共有をしたりする目的で、毎年、「調査研究・活動事例発表会」と「連絡会議」が開催されています。昨年11月、環境省自然環境局生物多様性センター、当館、茨城県霞ヶ浦環境科学センター、茨城県生物多様性センターの共催で、第21回自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC21）が茨城県で開催されました。

調査研究・活動事例発表会

「人と自然の共生を目指して」というテーマで、11月29日（木）に当館で「調査研究・活動事例発表会」が開催されました。国立環境研究所の角谷拓氏による基調講演「湖沼・流域の生態系の評価とその保全－霞ヶ浦を中心として－」では、霞ヶ浦の生態系の変化や広域的な保全計画について、最前線の研究成果に基づき解説していただきました。その後、生物多様性の保全や外来種問題に関する最新の研究や取り組みについて、25機関から7件の口頭発表と20件のポスター発表が行われました。当館からも茨城県や栃木県の外来種

や希少種などに関する5件のポスター発表を行いました。当日は全国各地から80名の専門家や関係者らが集まり、会場では多くの質問が飛び交うなど、活気溢れたものとなりました。

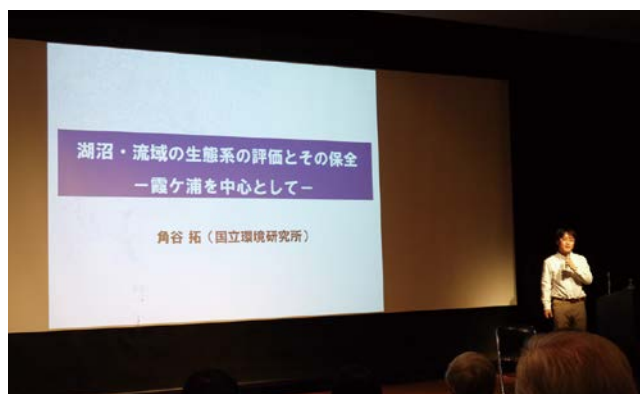
連絡会議

翌日の30日（金）には、茨城県霞ヶ浦環境科学センターで、NORNAC加盟機関29機関43名が集まり、連絡会議が開催されました。会議では、ホスト機関が茨城県における外来種問題や希少種保護に対する取り組みのほか、昨年10月に開催された第17回世界湖沼会議の成果などについて話題を提供しました。また、連絡会議終了後のエクスカージョンでは、参加者がセンター内の展示室や研究室を見学しました。連絡会議は、茨城県の環境問題や生物多様性保全の取り組みをアピールするよい機会となりました。（資料課 池澤広美）

当館職員の発表一覧

タイトル	発表者
霞ヶ浦における特定外来生物オオバナミズキンバイ（アカバナ科）の生育状況	伊藤彩乃・小幡和男・宮本卓也・豊島文夫・吉川宜治
茨城県妙岐ノ鼻におけるコケ植物相	鶴沢美穂子・杉村康司
茨城県における外来種ムネアカハラビロカマキリの記録	中川裕喜・櫻井 浩・井上尚武・井上大成・西元重雄
栃木県における外来種マダラコウラナメクジの初めての記録	池澤広美・宇高寛子
茨城県つくば市におけるニホンジカの捕獲および交通事故死の記録	後藤優介

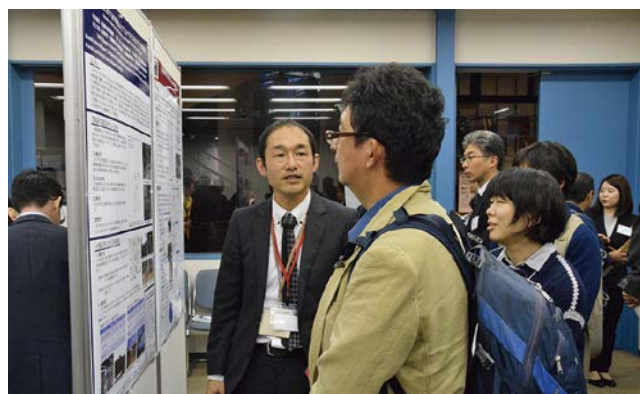
※太字は当館職員



角谷拓氏による基調講演



連絡会議で茨城県の外来哺乳類について話題提供した後藤学芸員



発表会で茨城県の外来カマキリについてポスター発表する中川主任学芸主事



連絡会議終了後のエクスカージョン

企画展の展示製作から終了まで

企画展ができるまで 4

シリーズ「企画展ができるまで」の最後は、「展示製作から終了まで」について紹介します。

企画展の実質的な展示製作は、企画展開始の約2週間前から行います。設計した図面にに基づき、展示施工業者による展示室内の壁やケースなどの配置、大型ジオラマや模型の設置、展示室入り口の装飾などの工事からはじまります。その間に、企画展の担当メンバーは、他館への資料借用や展示解説パネルを製作します。開催の10日前ごろ、大規模な工事が終わり、展示室の形ができてくると、メンバーは展示物の陳列や解説パネルの配置などをしていきます。解説パネルは基本的に展示解説書をもとに原稿を作成し、展示物にあわせて壁面に配置しますが、ケース内などに補助的なパネルを置くこともあります。また、体験型展示の使い方のパネル製作、安全に展示をご覧いただくための表示作成や展示物固定なども行います。開催の3日前ごろ、メンバーが最も緊張する瞬間が訪れます。館長など多数の職員による展示室全体の最終確認です。ここでは、来館者の目線に立ち、説明や表示のわかりやすさや安全性、より楽しめる工夫などについての指摘があります。その指摘を受け、開催前日までより良い展示を目指し、ときには夜遅くまでかかります。



展示室の壁面を立てる工事

企画展開催初日には、オープニングセレモニーと内覧会が行われます。セレモニーには、企画展の展示協力者、当館の運営協力者やボランティアなどを招待しています。セレモニーではチーフが企画展製作の思いや見所を紹介し、内覧会ではメンバーが担当したコーナーで解説を行います。

企画展は開催して終わりではありません。期間中、チーフを中心にさまざまなメディアの取材を受けたり、イベントを実施したりして企画展を盛り上げます。また、日々の展示室の確認やメンテナンスもメンバーが交替で行います。同時に、借用資料の返却の日程調整、新たに製作した展示物の活用や収納場所の調整なども行います。企画展を機に収集した資料や製作物は、他館への貸出や常設展に活用されることもあります。2012年開催の第54回企画展「植物たちのSOS」展で製作されたビッグ・レッドデータブックは、現在も第5展示室に展示されています。会期終了後、展示室の撤収作業、他館から借用した資料の返却が済んでからはじめて、企画展が終了したといえるのです。

全4回の「企画展ができるまで」のシリーズをとおり、これまでと違った目線で企画展を楽しんでいただければ幸いです。
(資料課 中川裕喜)



第74回企画展 恐竜骨格の組み立てのようす

アルファベット略語について

最近、テレビや新聞だけでなくいろいろな場面でアルファベット略語が使われるようになりました。以前は、WC、PC、CD程度でしたが、国際機関や会議・委員会などもほとんどが略語になっています。UNICEF、WHO、NPO、ACEANなどは以前からある略語ですが、最近ではTPP、APECなどもあります。これらはどうにか理解できるようにも思えます。

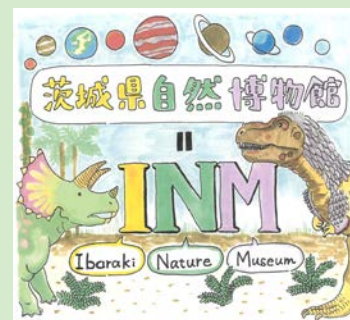
このような略語はコンピュータの略語だけで数百あるといわれています。

最近では、ネット世界のSNSがよく使われ、AIは人工知能、IoTは「モノのインターネット」と訳されますが、会話の中で使われると訳がわからない状況です。このような略語は、今後も増えていくのでしょうか。

博物館関連ではICOM（国際博物館会議）がありますが、それぞれの博物館にも略語があります。茨城県自然博物館の略語はINM（Ibaraki Nature Museum）で、当館に収蔵されているすべての資料は、この略語

館長コラム by director YOKOYAMA

と番号が付けられて保管されています。



イラスト：小泉美絵（ミュージアムコンパニオン）

桜川のサクラ

研究報告 1

「西の吉野、東の桜川」という桜の名所を表す言葉があります。これは、八代将軍・徳川吉宗が吉野と桜川のサクラを玉川上水に植えたことが由縁といわれています。桜の名所として多くの人が知る奈良県吉野山と肩を並べる名所が茨城県桜川市にあります。

桜川の桜は、日本の植物学の基礎を築いた三好氏が調査し、櫻川磯部稲村神社の参道を中心とした区域が国の名勝「桜川（サクラ）」として指定され、さらに国の天然記念物「桜川のサクラ」としても追加指定されました。しかし、現在桜川のサクラは徐々に衰退し枯損もみられ、地域住民や桜川市は、名勝・天然記念物を中心にサクラの保全活動に取り組んでいます。

保全活動を行うためには、正確な現状を知る必要があります。しかし、桜川においてサクラの種類の調査はこれまで行われていませんでした。そこで、指定域を含む一帯のサクラの種類について、森林総合研究所の勝木俊雄博士が中心となり、桜川市や当館が共同で調査を実施しました。

調査は、名勝・天然記念物の指定域に加え、隣接する櫻川磯部稲村神社および磯部桜川公園を含むサクラが植栽されている一帯で行いました。「神社」、「参道」、「指定域内公園」、「指定域外公園」の区域ごとに個体番号を付け、2018年4月に合計492個体について、花

および若葉の調査を行いました。また、同年6月に成葉の調査を行いました。

調査の結果、①カンヒザクラ（参道と指定域外公園に2本）、②エドヒガン（指定域外公園に3本）、③ヤマザクラ（全域で223本）、④カスミザクラ（全域で28本）、⑤オオヤマザクラ（指定域外公園に1本）、⑥オオシマザクラ（指定域外公園に1本）、⑦サトザクラ（神社と指定域外公園に17本）、⑧マメザクラ×エドヒガンの雑種（神社と指定域外公園に2本）、⑨エドヒガン×ヤマザクラ×オオシマザクラの雑種（指定域内公園に45本）、⑩ヤマザクラ×カスミザクラの雑種（全域で85本）、⑪エドヒガン×オオシマザクラの雑種（全域で85本：すべてソメイヨシノ）でした。桜川市の国の名勝・天然記念物を含む指定域一帯のサクラの種は、野生種・雑種・栽培品種を含めて11種類を確認できました。

このなかで、③ヤマザクラ×④カスミザクラ、⑩ヤマザクラ×カスミザクラの種間雑種は、この地域に自生していた個体に由来し、これら以外の種類は外部から持ち込まれたものと考えられます。これからは、自生種を本来の名勝・天然記念物の対象と認識し、保全を図っていく必要があると考えています。

（教育課 日向岳王）



「桜川のサクラ」指定の記念碑



名勝・天然記念物指定域の分布

春の小さな驚きーツクシのおはなしー 小さな発見 ミュージアムコンパニオン

春の訪れを告げるツクシ。みなさんも小さい頃に摘みとって遊んだことがあるのではないのでしょうか。見た目も可愛らしく私たちになじみ深い植物ですが、実はとても面白い生態をもっているのです。

「ツクシ誰の子スギナの子」と唱われるように、ツクシの正体は「スギナ」というトクサ科のシダ植物です。スギナは地上に、胞子を飛ばすための胞子茎（ツクシ）と栄養茎（スギナ）の

2種類の茎を出します。十分に成長したツクシの先端をポンポンとたたくと緑色の胞子が出てきます。スギナはタネではなくこの胞子で子孫を残しています。

ツクシのそばにスギナを見つけたら根元の土を掘り返してみてください。地面の下で繋がっているようが見られるはずです。

ツクシの花言葉のひとつは「驚き」です。何気ない場所でひっそりと背を伸ばすツクシの驚きの生態をぜひ

確かめてみてください。

（ミュージアムコンパニオン：栗崎香菜）



ツクシ

中生代白亜紀のスッポン化石

研究報告2

2018年6月に早稲田大学で開催された「6th Turtle Evolution Symposium (第6回国際カメ進化シンポジウム)」で、茨城県的那珂湊層群から発見された中生代白亜紀のスッポン類化石について発表を行いました。

那珂湊層群は、白亜紀の海底で堆積した地層で、茨城県ひたちなか市の太平洋岸に分布しています。この地層からは殻が立体的に巻いた「異常巻きアンモナイト」などの化石が発見されており、茨城県の天然記念物および県立自然公園として保護されています。

私たちは2017年に、これまで那珂湊層群から発見された翼竜類、モササウルス類、スッポン類の骨格化石について記載を行いました(加藤ほか, 2017)。しかしながら、このスッポン類の化石は転石(地層からはずれていた石)から発見されたものであったため、那珂湊層群から産出した化石として研究を進めるには、地層から新しくスッポン類の化石を発見する必要があります。

そこで私たちは関係当局から特別な許可を得て、那珂湊層群において発掘調査を行いました。その結果、2個の新たなスッポン類の化石と分類不明の骨片を地層中から発見することができました。2個のスッポン類化石はいずれも肋板という背中の甲羅の一部の骨で

す。粗い虫食い状の彫刻が表面に発達し、鱗板溝という特徴が見られないことから、スッポン科であると判断できます。大きな標本からは、このスッポン類の甲長が約80cmであったと推定されます。白亜紀後期の日本にこれほどの大きさのスッポン類が生息したという、古生物地理学的に新たな知見を得ることができました。

また、確実に那珂湊層群から産出したスッポン類の化石が得られたことで、この地層から中生代白亜紀の陸生動物の化石を発掘できる可能性が示されました。那珂湊層群は海底で堆積した地層ですが、スッポン類は淡水から汽水に生息する動物であるため、スッポン類の骨格は死後に河川の流れや水中土石流などで海底に運搬されたものであると考えられます。これは、恐竜のような当時陸上に生息していた動物の化石も、那珂湊層群から発見される可能性があることを示しています。今後も発掘調査を継続することで、いつか茨城県から恐竜化石が見つかる日が来るかもしれません。第74回企画展「体験！発見！恐竜研究所—ようこそ未来の研究者—」では、これらのスッポン化石を含む那珂湊層群で発掘された化石を展示しています。ご覧いただけますと幸いです。(資料課 加藤太一)



那珂湊層群がみられる海岸



新たに発見されたスッポン類化石(左上, 左下)と分類不明骨片(右下)

博物館生まれのゲンゴロウ

今回は、2018年に繁殖に力を入れた「ゲンゴロウ」について紹介します。

ゲンゴロウの成虫は背が光沢のある緑色をしており、水中をスイスイと泳ぎ回り、たまにお尻の先を水上に出して呼吸をする姿が可愛い水生昆虫です。4月に展示水槽内で産卵をしました。産卵は前年にもありましたが、その後幼虫期に死んでしまったので、今回こそは成虫まで育てたいという思いがありました。

そこで、共食いを防ぐために1匹ずつケースを分け、旺盛な食欲に合わせて餌を十分に与え、水をきれいに保ち、蛹化・羽化専用のケースをつくるなど、多くのことに注意をして飼育を続けました。幼虫は脱皮を繰り返し、土中でさなぎになった後7月、無事成虫になり土から這い出てきました。

成虫になったゲンゴロウは現在、円柱型水槽において展示していますので、ご来館の際はぜひご注目くだ

おさかな通信

さい。(水系担当 佐藤まなみ)



蛹化のために土にもぐる幼虫

果物の花のさく葉標本

収蔵品紹介

第73回企画展「くだもの展」では、普段見ることが少ない、果物の花の「さく葉標本」(押し葉標本)を収集し、展示しました。各地の植物園や果樹園に協力していただき、2年間かけて、果物の花を中心に約50種類の標本作製しました。開花の期間が短かったり、強風で、花が散ってしまったりと、よい標本の採集には時間と労力がかかりました。通常のさく葉標本は、乾燥機を使うことで、比較的短時間で作製できます。しかし、今回は、吸湿シートにサンプルを挟み、圧力を加えながら、丁寧に水分を取り除き、色をきれいに残す努力をしました。1つの標本作製につき、2

週間ほどの時間がかかっています。標本が変色してしまい、次年度に作り直したものもあります。努力のいきがあり、美しい標本を作り上げることができました。写真とさく葉標本を照らし合わせながら、果物の意外な一面をご覧いただけたのではないのでしょうか。

現地調査を重ねて標本作製したことは、貴重な資料収集の機会になりました。これだけ多くの果物の花のさく葉標本を所蔵している博物館はほかにないと思われます。作製したさく葉標本は大切に整理、保管し、広く活用したいと考えています。

(資料課 豊島文夫)



くだもの展での標本の展示のようす



果物の花の「さく葉標本」

ホーホケキョのひみつ

なるほど博物館

いばレックスとコティランが自然に関する情報をわかりやすくお伝えします。



ウグイス

ホーホケキョー



コティラン

あ！ウグイスが鳴いてる！もうすぐ春がくるんだね～。

ああ、きれいな声で鳴いているね。どうしてウグイスは春になると「ホーホケキョ」って鳴くか知ってるかい？



いばレックス

う～ん…なんでだろう？

温かくなって、うれしくて鳴いてるのかなあ。

実はね「ホーホケキョ」の鳴き声は「さえずり」といって、繁殖期のオスがメスにアピールするために鳴いているんだ。ほかにも、自分のなわばりに入ってきたオスに対して、「ここは自分のなわばりだ」というアピールにもなっていて、出入りを禁止する信号の役割ももっているんだよ。

そうだったのか～。

じゃあオスしか「ホーホケキョ」って鳴かないんだね。

そうだね。ほかの鳥のなかまをみても、ほとんどはオスしかさえずりをしないんだ。でも、鳥たちはなかまとコミュニケーションをとるために「地鳴き」とよばれる鳴き声も使っていて、オス、メスに関係なく鳴き交わしているよ。ちなみに、ウグイスは「チャッ チャッ」って鳴くよ。

さえずりはどの鳥もするの？

いやいや、すべての種の鳥たちがみんなさえずりをしているわけではないんだ。ウグイスなどの、鳴禽類とよばれるスズメ目のなかまの鳥たちは、きれいな声でさえずりするよ。身近にいるハシブトガラスは、たくさんのパターンの地鳴きを使い分けているんだって。

ほかの鳥の鳴き声も聞いてみたくなっちゃった。探しにいってみよう！

(教育課 加倉田学)

イラスト：ツク之助

トピックス

○放送設備の更新&トイレの洋式化

2018年12月に博物館全体の放送設備の更新を行いました。

開館当時の設備を毎年点検しながら使用していましたが、非常用放送（災害時に使用）も兼ねているこの設備、「何かあってからでは遅い！」ということで、今回の更新となりました。さらに、放送がより聞こえやすくなるように、既存設備の更新に加えて屋外スピーカーを増設しました。「前より放送が聞こえやすいな」と感じてもらえたら大変うれしいです。

また、トイレの洋式化も進めています。予算の関係上、すべてを一度に改修とはいきませんが、順次実施しております。2015年度から改修をすすめ、2018年度は第3展示室（自然のしくみ）奥のトイレと自然発見工房のトイレの改修を実施し、これまでに全体の約8割の洋式化が完了しました。幼児用の補助便座も設置しましたので、ぜひご利用ください。

今後も、みなさんに快適にご利用いただける博物館を目指して、施設設備のメンテナンス・改修を行っていきます。（管理課 大崎昌幸）



増設した屋外スピーカー（リスの目タワー）

○野外プログラムが更新されます！

2019年4月から、野外施設に設置されている看板を活用したプログラムがリニューアルされます。今回は新たに、クイズ看板を活用した「野外クイズに挑戦Q&A」と、自然観察ノート看板を活用した「野外自然探検隊！」の2つのプログラムを更新する予定です。

「野外クイズに挑戦Q&A」は三択クイズ形式になります。新たな内容の問題を加えて全20題に厳選します。館内や自然発見工房に設置されている専用のパンフレットを手に、地図に表記された看板を探しながら挑戦してみてください。

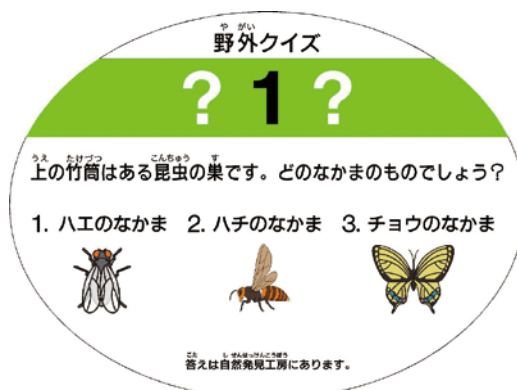
「野外自然探検隊！」は穴埋め形式になります。マンモスコース、大地コース、白鳥コースの3コースを用意しています。地図を頼りに看板を探し、そこに書かれている内容をヒントにしながら問題に答えます。

どちらのプログラムも、自然発見工房を出発して野

外施設を回った後、再び自然発見工房に戻り、博物館オリジナル認定印を押してゴールとなります。

多くの方の挑戦をお待ちしております！

（教育課 西元重雄）



クイズパンフレット用看板サンプル

○博物館の周辺にイノシシ出現

イノシシは茨城県では八溝山や筑波山周辺など、山地を中心に広く分布しています。昭和40年代には強い狩猟圧や伝染病の流行などが原因と考えられる個体数の減少がありましたが、近年は徐々に分布域が拡大し、山沿いの水田を中心に平野部でも農業被害が発生しています。しかしながら、当館は茨城県の南西端に位置し、周辺は田んぼや耕作地などの開けた環境が多く、また住宅も点在する地域であることから、イノシシが生息する場所という認識はありませんでした。

しかし、2016年秋ごろより、当館の周辺でも畑に付いた足跡や、住民による目撃などの情報が入り始めました。被害の拡大や人身被害防止のため坂東市により対策が進められた結果、2017年9月から2018年8月にかけて計7頭のイノシシが捕獲されました。現時点で博物館周辺における生息頭数や侵入経路は分かっていませんが、捕獲された個体にメスの成獣や1歳未満の幼獣も含まれていることから、既にこの周辺で繁殖し、定着していると考えられます。今後、新たな住民となったイノシシとの付き合い方を考えていく必要がありそうです。（資料課 後藤優介）



畑に残されたイノシシの足跡

「ポケット学芸員」を導入しました



左:展示室内での表示 中央:ナンバー入力画面 右:ポケット学芸員ダウンロード用QRコード

新しい展示ガイダンスシステム「ポケット学芸員」を導入しました。このシステムは、スマートフォンやタブレットなどの端末に、ポケット学芸員のアプリケーションをダウンロードしていただくことで利用できます。使い方は、ダウンロードしていただいたアプリケーションを起動した後、表示される施設から当館を選び、館内展示に添えられている専用の番号を入力するだけです。テキストや音声、画像、動画による情報を得ることができます。普段、学芸員とともに館内を見て回る機会は多くないと思います。しかし、このポケット学芸員をご利用いただくことで、まるで学芸員から説明を受けているかのように、展示についての基礎知識や専門情報、補足情報などを知ることができます。

現在開催中の第74回企画展「体験！発見！恐竜研究所—ようこそ未来の研究者—」の展示室内でも、期間

限定でポケット学芸員が使用できます。展示室内のパネルや展示解説書にも載っていないような情報もあるかもしれません。

また、当館のポケット学芸員は、今後英語版コンテンツも公開する予定です。より多くの方々に、当館の魅力を発信することができるようなシステムとして今後もコンテンツの更新を続けていきます。

ポケット学芸員は当館以外の博物館などでも使えますので、ぜひ博物館巡りのおともとして使ってみてください。(資料課 高野朋子)

編集後記

毎号編集会議を行い、執筆者と相談しながら誌面を作りますが、その過程が一番面白いです。裏話満載です。いろいろな話を聞いて、館内や野外を歩くといつもの道も景色が変わって見えます。視点を変え、視野を広げるとこんなにも面白い世界に出会えるんだなあと感じます。(S.F.)

【交通案内】



【車ご利用の場合】

- 常磐自動車道谷和原ICから20分
- 圏央道坂東ICから25分
- 鉄道・バスご利用の場合
- 東武アーバンパークライン(野田線)愛宕駅下車～茨城急行バス「岩井車庫行き」乗車～「自然博物館入口」下車、徒歩10分
- つくばエクスプレス、関東鉄道常総線守谷駅下車～関東鉄道バス「岩井/パターミナル行き」乗車～「自然博物館入口」下車徒歩5分

※事前に発車時刻等をご確認ください。



【開館時間】

9:30から17:00まで
(入館は16:30まで)
※ペット、遊具、テابل、椅子及びテント等のお持ち込みはご遠慮ください。

【入館料】

区分	本館・野外施設		野外施設のみ	年間パスポート
	企画展開催時	通常時		
一般	740円 (600円)	530円 (430円)	210円 (100円)	1,540円
満70歳以上	370円 (300円)	260円 (210円)	100円 (50円)	
高校・大学生	450円 (310円)	330円 (210円)	100円 (50円)	1,030円
小・中学生	140円 (70円)	100円 (50円)	50円 (30円)	

※()内の数字は、20名以上の団体料金です。
※県外の学校団体は、児童生徒数にかかわらず団体料金がかかります。
次の日は入館料が無料です。

- 5月4日(みどりの日)
- 11月13日(茨城県民の日)
- 高校生以下の児童・生徒は毎週土曜日(ただし、春・夏・冬休み期間を除きます。)
- 高齢者(満70歳以上) 1月、4月、7月の第3土曜日、9月15日～9月21日(老人週間)(ただし、休館日を除きます。)

【休館日】

- 毎週月曜日
- ※4月29日(月)、5月6日(月)は開館し、5月7日(火)、5月8日(水)は休館となります。



自然博物館ニュース A・MUSEUM (ア・ミュージアム)

A・MUSEUM (AMUSEMENT + MUSEUM)

企画・編集:ミュージアムパーク茨城県自然博物館企画課/発行2019年3月15日
〒306-0622 茨城県坂東市大崎700番地 TEL.0297-38-2000 FAX.0297-38-1999
URL: <https://www.natmuseum.ibk.ed.jp/>
E-mail: webmaster@natmuseum.ibk.ed.jp

Facebookもチェック



ミュージアムパーク茨城県自然博物館友の会
入館料が無料&限定イベント多数!

家族会員 4,000円 個人会員 3,000円
子ども会員 1,000円 賛助会員 10,000円
※特典 イベントへの参加、ショップ・レストランでの割引

ミュージアムパーク茨城県自然博物館は、誰もが親しめ、誰もが楽しめるア・ミュージアム(アミューズメント+ミュージアム)をめざしています。